

§ 15 階段

15-1 片持階段

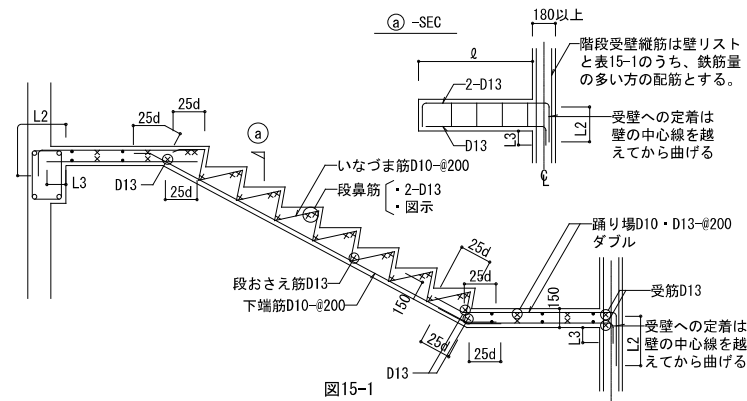


表15-1 階段受壁の縦筋 (ℓ：片持階段の寸法)

壁 厚	ℓ ≤ 1200	1200 < ℓ ≤ 1500	1500 < ℓ ≤ 1800
180	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@125ダブル
200, 220		D13-@200ダブル	D13-@150ダブル
250			D13-@200ダブル

- 注1) 階段寸法は意匠図による。
2) 段部及び踊り場の配筋は図示による。図示の無い場合は図15-1による。
3) 階段受け壁については図示（壁リスト）と表9-1のうち、配筋量の多い方を適用する。

15-2 二辺固定スラブ階段

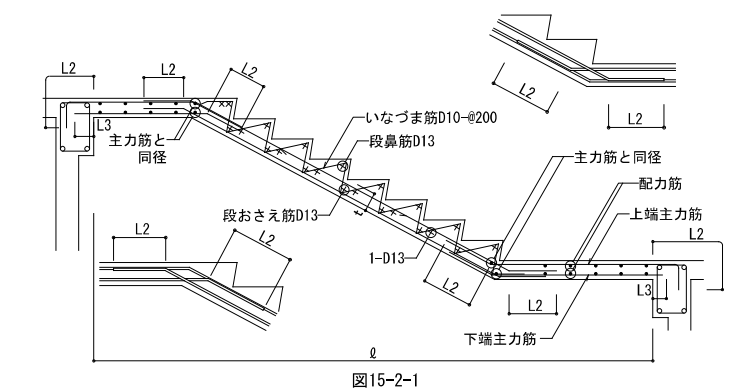


図15-2-1

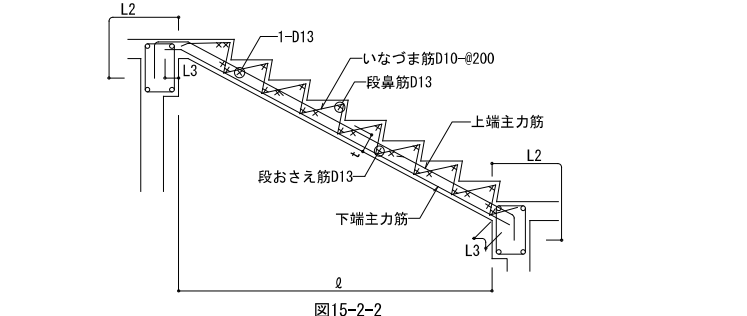


図15-2-2

表15-2 二辺固定スラブ階段の板厚及び配筋 (ℓ：スラブ階段の内法スパン)

適用	ℓ	t	主力筋	配力筋
・	ℓ ≤ 3000	150	D13-@200ダブル	D10-@200ダブル
・	3000 < ℓ ≤ 3500	150	D13-@150ダブル	D10-@200ダブル
・	3500 < ℓ ≤ 4000	180	D13-@125ダブル	D10-@200ダブル
・	4000 < ℓ ≤ 4500	180	D13-@100ダブル	D10-@200ダブル
・	4500 < ℓ ≤ 5000	200	D13・D16-@125ダブル	D10・D13-@200ダブル
・	5000 < ℓ ≤ 5500	220	D16-@125ダブル	D10・D13-@200ダブル
・	5500 < ℓ ≤ 6000	250	D16-@125ダブル	D13-@200ダブル

- 注1) 階段寸法は意匠図による。
2) 段部及び踊り場の配筋は図示による。
図示の無い場合は表15-2及び図15-2-1、図15-2-2による。

§ 16 雑配筋（構造図に配筋詳細図の無い場合、当配筋図による）
共通事項：<D13>：D13かつスラブ・壁の主筋径以上

16-1 犬走り

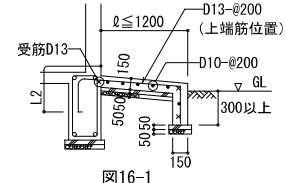
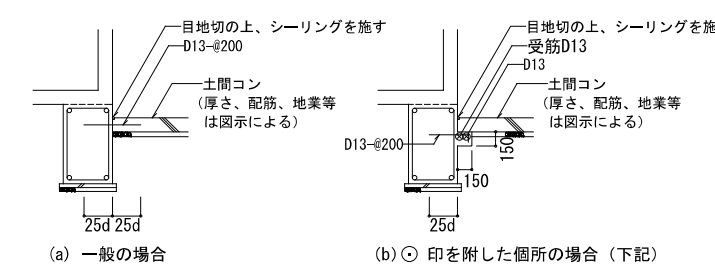


図16-1

16-2 外周土間コンと本体（基礎梁等）との取合い

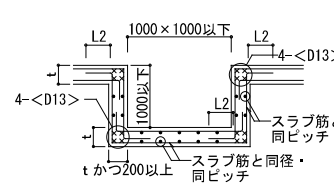


(a) 一般の場合

(b) 〇印を付した個所の場合（下記）

- 〇 車両走行部
〇

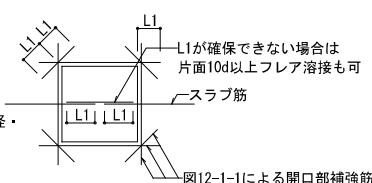
16-3 床版ビット



注1) t：スラブ厚

図16-3

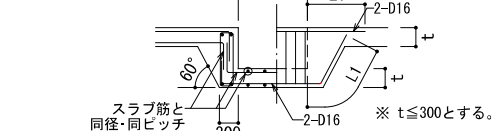
16-4 型枠撤去用等のダメ穴の補強



注1) 後打コンクリートは無収縮コンクリートとする。

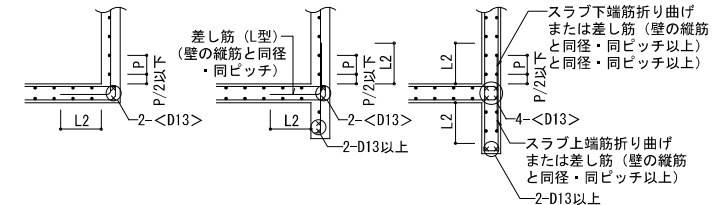
図16-4

16-5 釜場

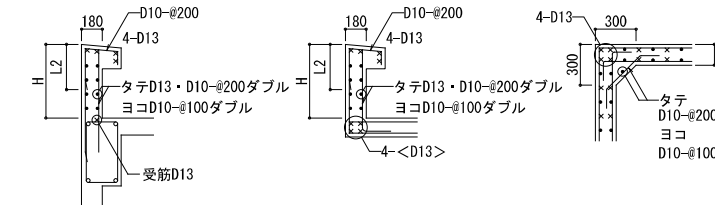


※ t ≤ 300とする。

16-6 先端壁と片持ちスラブの取合い



16-7 バラベット (H ≤ 1200)



梁が有る場合

梁が無い場合

出隅部（水平断面）

図16-7

16-8 屋上配管取出口 (B ≤ 2000, H ≤ 2000, C ≤ 1000)

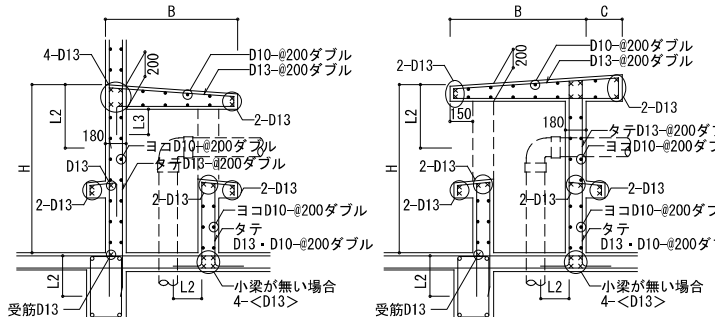
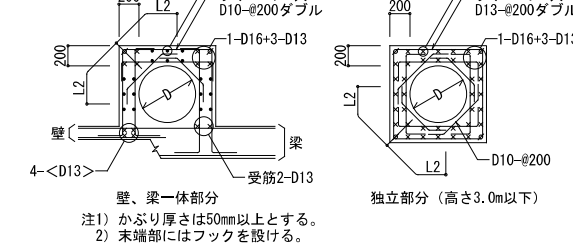


図16-8

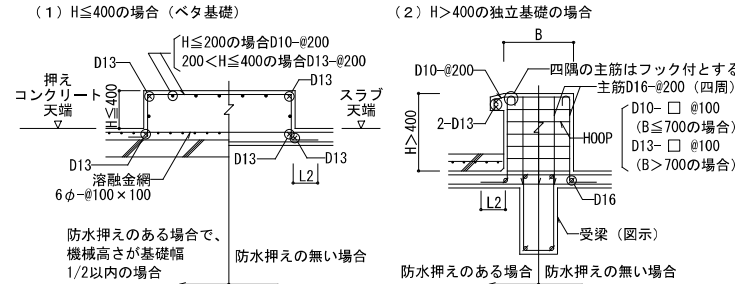
16-9 煙突



- 注1) かぶり厚さは50mm以上とする。
2) 末端部にはフックを設ける。

図16-9

16-10 機械基礎



(3) H > 400の析基礎の場合

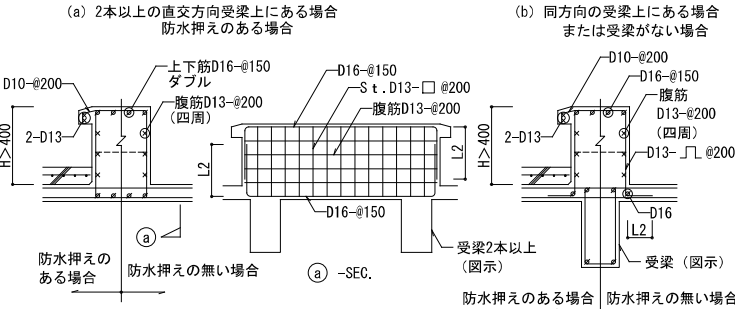


図16-10

16-11 機械吊上げ用フック

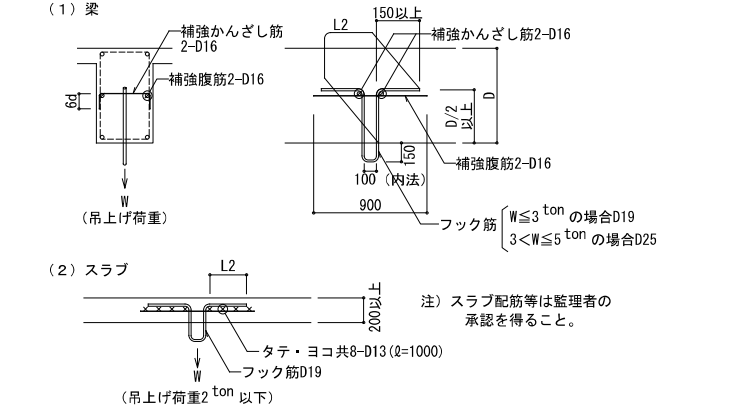


図16-11

16-12 コンセントボックス等埋込の補強

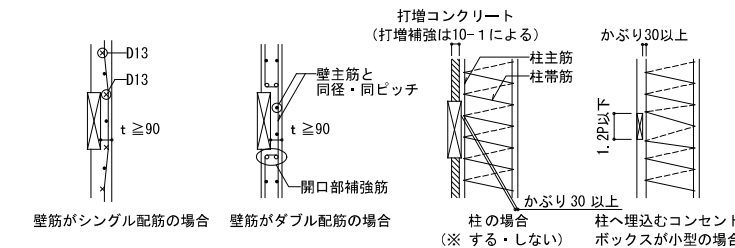


図16-12

- 注1) 壁に埋込む場合で t < 90 となる場合はコンクリートは打設せず開口部とし、表面は乾式仕上材でふさぐこと。
2) 外壁には原則として設けない。
3) 原則として柱に埋込む場合は、かぶり30以上を確保すること。
やむを得ずかぶりが取れない場合は必ず監理者の承認を得ること
（補強方法は監理者の指示による）。

§ 17 鉄骨造との取合い

17-1 コンクリートスラブと鉄骨梁との取合い (図中<D13>はD13かつスラブ主筋径以上を示す)
(1) 一般部

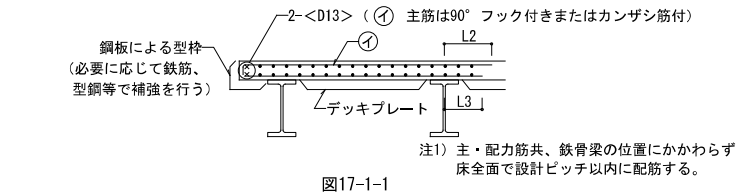
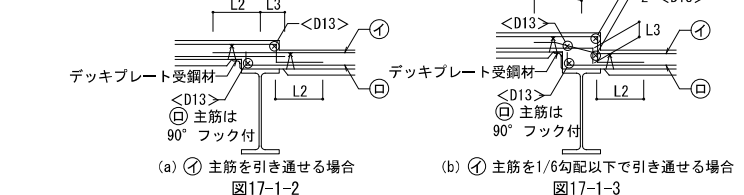


図17-1-1

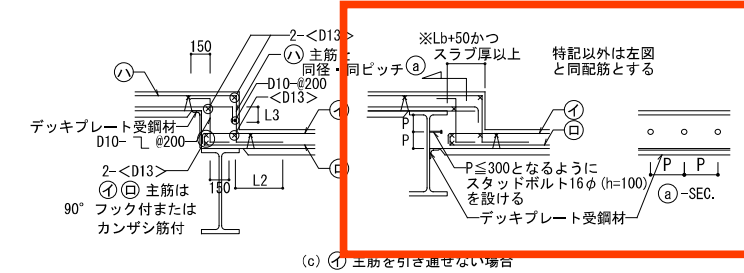
(2) 段差のある場合



(a) ①主筋を引き通せる場合

(b) ①主筋を1/6勾配以下で引き通せる場合

図17-1-2



(c) ①主筋を引き通せない場合

- 注) ①は受筋<D13>とバーサポートを示す。
梁幅が200未満の場合は段差部梁体幅を200mm確保する。

図17-1-4

17-2 根巻き形式柱脚

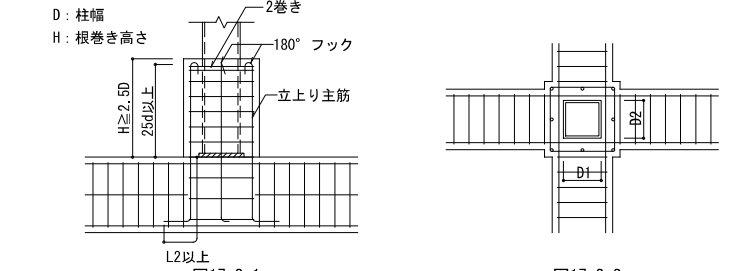


図17-2-1

- 注1) 柱幅はD1、D2のうち大きい方の値とする。
2) 根巻きコンクリートの寸法、主筋、あばら筋等は図示による
（根巻き高さについては、上図で規定された高さ以上であることを確認すること）。

17-3 埋込み形式柱脚

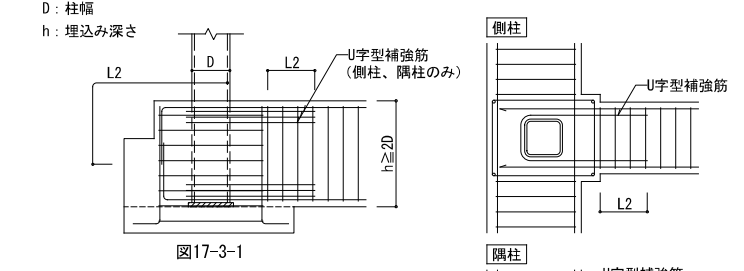


図17-3-1

図17-3-2

- 注1) 鉄筋工事に先立ち、配筋要領詳細図を作成し、基礎梁主筋、U字型補強筋等の納まりを検討した上で監理者の承認を得ること。
2) 柱の埋込み深さ・かぶり厚さ等は図示による。
（埋込み深さについては上図で規定された深さ以上であることを確認すること）
3) U字型補強筋の径及び本数は図示による。
4) U字型補強筋は極力基礎梁主筋上端及び下端位置附近に設けること。
5) 基礎梁主筋径がU字型補強筋の径よりも太い場合、主筋をU字型定着としてU字型補強筋の本数に加算してもよい。

2021年 2月 1日 改訂

特記

工事名

（仮称）下津中学校校舎等建設工事

図面内容

配筋標準図（10）

図面区分

S

図面番号

013

縮尺

N. S.

区分

建築構造図